

阿川ランドセル株式会社



代表取締役 阿川 政明さん

年間1万5000個のランドセルを作っています。

ランドセルは、本革のものと人工皮革のものがありますが、うちは人工皮革のランドセルがメイン。20年前ぐらいまでは本革で作っていましたが、本革は、1枚1枚をランドセルのパーツにカット。しかも、虫刺されや擦った痕など革自体についている傷をよけながら裁断しなければなりません。少しの傷でも返品やクレームになりますから、作業にも手間がかかり、コストもかかってしまいます。

人工皮革に移行してからは最新マシンを導入し、生産性をアップ。ただ、機械だけに頼っているのは、大手の取引先に満足いただける品質を作り上げられません。サンプルを作れる技術を持っているからこそ、細部にまで厳しい目でチェック。最終的な仕上げは人の手でを行っています。

この業界は設備投資に多額の費用がかかるため、新規参入はほとんどありません。逆に、少子化によるランドセルニーズの減少で、廃業するメーカーも増えています。それでも、うちが続けられているのは、祖父の代から続けてきた技術力と設備力があるから。直販ではなくOEMに徹していることも、難しいデザインや厳しい品質に応えるために技術力をあげることにつながっています。

専務取締役 阿川 純司さん



専務の
ふたごの
おじいちゃん
ランドセルは、
社長自らか
作ったもの。
「僕自身も親に
作ってもらい
ました。が、
小学4年生ぐらいまで
通っていました(笑)」



工場は1階が裁断、2階が縫製や組み立てなどのメイン作業場。

裁断から縫製、仕上げまでラインで作業を行っているの、製品ができあがるのを見られるのが楽しい。

職業体験では糸を切ったり生地を裏返ししたり、糊付け作業などを行っていただきます。

年1万5000個以上を製造 人工皮革のランドセル

昭和27年に創業し、時代に左右されることなく一貫してランドセルを製造。現在、大手流通グループや大手百貨店などの依頼を受け、OEM(Original Equipment Manufacturerの略。他社ブランドの製品を製造)での製造を行う。

ランドセルは4月ごろから展示会や受注販売会が行われ、6～10月ごろにピークを迎える。同社では多い月に1800個、年間で約1万5000個ものランドセルを製造。少子化の流れを受けランドセルも減少しつつある反面、1個あたりの単価は年々アップ。ここ数年は、高価なものから売れていく現象が起きている。同社は現在、人工皮革のランドセルをメインに行っている。人工皮革といっても、撥水加工や発色、質感など本革に劣らない品質を兼ね備えたもので、価格も高めのものを選ぶ。大手流通グループのキャラクターランドセルは20%以上増産、百貨店ブランドも増産続きで、同社の作り出す品質の高さがうかがえる。

製造を支えるのは、30代の若手スタッフが中心。お子さんのいるママスタッフも多く、明るくきれいな作業場が印象的。ナイフカッティングマシンとCADシステムの導入で、飛躍的な生産能力の向上と短納期を実現している。

阿川ランドセル株式会社

〒544-0022 大阪市生野区舍利寺2-6-17
TEL 06-6731-3477 FAX 06-6731-3478

事業内容/ランドセルの製造・販売



パーツごとに
製作した部品を
くみあせていく。

ランドセルにおける国産と中国産の違いは、修理ですね。6年間、修理しても使いたいというユーザーが多い中、金具の交換なども対応しています。

うちのランドセルは、
精巧にできてます。
まあ、中国製品には
負けませんよ。

人工皮革は
カラーバリエーションが
豊富なのでウチでは
30色を展開しています。



ベルト部分の縫製マシン。
枠に裁断したベルト革をはめ、
マシンにセットしたら、
機械が正確に縫い上げてくれます。

多額の設備投資が必須。
ランドセルの製造には、
うちは、祖父の代からの
新しい機械もある。

参観日や行事など、
病欠以外でも
事前に申告
すれば休める。
スタッフ同士で
カバーし合う
ことで、
「この人が
休んでも
今度私が
フォローする」
という
考え方が
根付いているそう。



我が社の 自慢 スタッフ お気に入りの 休憩室!!

以前の作業場は狭くて、食事も休憩時のコーヒーも作業場の横で。新しい作業場には必ず、休憩室を作りたいと思っていたそう。現在の休憩室の壁紙はスタッフが選び、コーヒーや女性スタッフのために紅茶も無料で飲める。



オオカズ
オオカズ